

「塩尻市の財政状況」

(平成26年度
塩尻市決算説明資料より)

塩尻市の起債残高 = 「塩尻市の借金の総額。市民一人当たり約87万円」

(単位：百万円)

	H24	H25	H26
塩尻市	60,798	59,175	58,880

市の一般会計や介護保険事業などの特別会計、水道事業などの公営企業会計などすべての会計を含めた借金の総額。

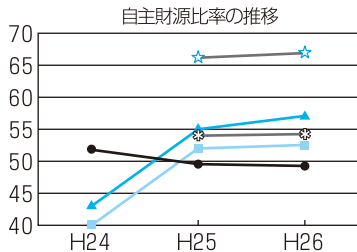
類似団体	H27.1.1人口 ※はH27.3.31人口	備考
塩尻市	67,666人	H17.4.1合併
千曲市	※61,713人	H15.9.1合併
安曇野市	※98,425人	H17.10.1合併
諏訪市	51,162人	—
須坂市	※51,717人	—

塩尻市の財政状況をわかりやすくするため、4つの数字について県内の類似団体の数字と併せて掲載しています。

類似団体＝国（総務省）が人口及び産業別就業人口の構成比によって分類したもので、県内では千曲市と安曇野市、諏訪市、須坂市の4市が、塩尻市と同じ分類です。

※平成25年度から諏訪市、須坂市が類似団体に追加されました。

自主財源比率 = 「収入源を、国や県に頼っていない割合」

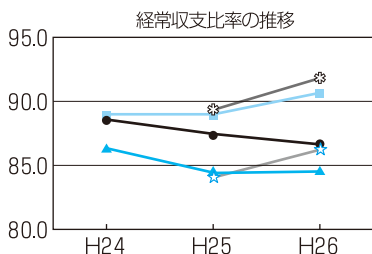


(単位：%)

区分	H24	H25	H26
塩尻市	51.9	49.4	49.1
千曲市	40.3	52.4	52.5
安曇野市	42.9	55.0	57.1
諏訪市	—	66.6	67.2
須坂市	—	54.3	54.3

市が自主的に収入し得る財源（地方税・使用料・手数料・財産収入等）の歳入総額に占める割合。行政活動の自主性と安定性を確保し得るかどうかの尺度。

経常収支比率 = 「数値が少ないほうが、ゆとりがある」



(単位：%)

区分	H24	H25	H26
塩尻市	88.5	87.2	86.8
千曲市	88.6	88.9	90.7
安曇野市	86.3	84.7	84.8
諏訪市	—	84.3	86.5
須坂市	—	89.1	91.9

人件費や公債費等の必ず必要な経常経費に、地方税、地方交付税などの必ず入る経常一般財源がどの程度充当されているかを見ることで、財政の弾力性が判断できる指標。一般的に市は75%程度が妥当とされている。

積立金残高 = 「いざという時のための積立金」

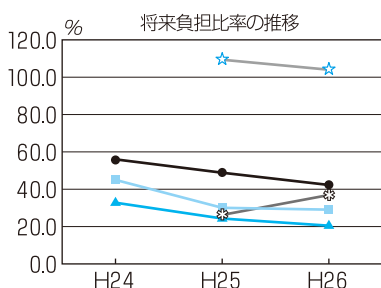
(単位：百万円)

区分	H24	H25	H26
塩尻市	5,736	5,903	6,516
千曲市	9,807	11,956	12,757
安曇野市	14,911	15,656	15,278
諏訪市	—	4,612	4,706
須坂市	—	5,665	5,510

将来の財政需要や不測の事態に備えるために積み立てているもの。



将来負担比率 = 「市の年収に対する借金残高の割合」



(単位：%)

区分	H24	H25	H26
塩尻市	57.1	49.9	41.4
千曲市	45.1	31.2	30.0
安曇野市	33.0	25.1	20.0
諏訪市	—	110.9	103.7
須坂市	—	27.5	38.7

市の一般会計等の地方債（借金）残高のほか、水道事業などの公営企業、市が出資している第3セクター等に対する借金を含めた額から市の標準的な年間収入を割ったもの。国はこの数値が、350%（借金残高が標準年収の3.5倍の額）を超えるとイエローカードとしています。